

## 4 個包装・各種検査



## 5 包装・検品・出荷

トレーに品質保持のためのアルコール製剤の小袋を入れ、商品5つをトレーに入れます(写真J)。外装フィルムに賞味期限などを印字し、包装機でトレーを包んだら金属探知機と重量検査機でトレーを箱詰めして出荷します(M)。



今回ご紹介した商品はこちら！

●大山乳業の  
特選牛乳を使った  
しっとりケーキ



宅配：  
12月3日に取り扱う予定です

店舗：  
一部店舗を除き取り扱っています

## 3 目視検品

1つずつ包装して金属探知機を通して検査用に1つ抜き取り、担当者が食べて味や匂いなどを五感で確認する食味検査(J)、生地をすりつぶして水分活性値を計測する検査(K)などを行い、品質に問題がないか確認します。



## 2 焼成

丈夫で生地がくっつきにくい紙の容器に、決められた分量の生地を入れます(写真D)。オープンで均一に熱を通しながら焼きます(F)。「焼きながら同時に滅菌しているので、安全面からも重要な工程です」と中山さん。



### コープクオリティとは



この商品は2023年9月に実施した組合員テストで、97.2%の組合員の皆さんが「おいしい」と回答しました。

97.2%が  
「おいしい」と  
回答！



この味を長く続けたい

2013年に工場をリフォームして衛生環境を整え、安全面にも注力しています。品質管理を担当する中山智雄さんは「焼成後はできるだけ手を触れないようになります」と話します。神経を使つ日々の業務で、励みになるのは、食べてくれた人の「おいしい」という言葉。「会社に手紙で伝えてくださるお客様もいらっしゃって、そうした言葉を支えに頑張っています」。製造を担当する仮屋崎貴代さんは、「お客様と接する機会は少ないのですが、食べてくれる皆さんの笑顔想像しながら、安心のものを届けられるよう作業している」と話します。「出来たてを食べられるのが工場勤務の特権ですね。この時点ではミルク感がありないのでですが、ほんのり温かくサックリした食感。時間がたつとしつとり感とミルク感が増して、紅茶によく合います」とのこと。オープントースターで少し焼くと、出来たてのサックリした食感が復活するのです。「持てる力は出しきった」と辻野さんが言いつける同じ商品には、すでに「変えないでほしい」という声が多く上がっていました。「長年変わらない味として、年配の方から小さな子どもまで、家族みんなで楽しめる。皆さん之力でそんなお菓子に育てていただけたらと思います」。食べれば笑顔になれるお菓子で、ぜひ楽しめます。



## ミルクの豊かなコクとバターの香り ふんわりリッチな味わいのケーキです

袋を開けたときのバターの香り、ふんわりとした食感と口の中に広がるミルク感。ハイクオリティの焼き菓子を生み出し続ける製造現場には、熱い想いでお菓子づくりに取り組む人々がいました。



左から、丸中製菓株式会社 商品開発課 辻野幸一さん、  
製造担当 仮屋崎貴代さん、品質管理課 中山智雄さん

## 大山乳業の特選牛乳を使った しっとりケーキができるまで

### 1 かくはん攪拌

卵液は異物混入を防ぐため、こし器を通してボウルに入れます(A)。ミックス粉と発酵バターを加え(B)。大山乳業の特選牛乳を投入(C)。混ぜごムがあるダマや空洞の原因になるため、ミキサーの羽根をボウルに当たらないようぎりぎりまで深く入れてしっかり混ぜます(D)。季節やミキサーの摩擦熱を考慮し、練り上がりした生地の温度を一定に保つことで、焼き上がりの膨らみ具合などが安定した仕上がりになります。



協議せずおいしさを追求

忙しい毎日の中にある、つかの間の休憩時間。そこに1杯の紅茶とおいしいお菓子があれば、至福のティータイムになりますよね。兵庫県加西市の丸中製菓株式会社で作る「CO-OP 大山乳業の特選牛乳を使ったしっとりケーキ」は、まさにこだわったコープクオリティ商品。それは、開発担当の辻野幸一さん。豊かなミルク感を出すため、ドーナツ・ワッフルすでに「CO-OP 大山乳業の特選牛乳を使ったふんわりドーナツ」「同ベルギーワッフル」という人気商品があり、この商品は2024年3月に発売しました。

「おいしさは絶対条件として妥協せず、価格の中で最大限の努力をしました」と話すのは、開発担当の辻野幸一さん。豊かなミルク感を出すため、ドーナツ・ワッフルと同様に、生地の練り込みに水ではなく鳥取県・大山乳業の特選牛乳を使っています。それを味のベースとして生地に練り込んでいる「当社の会長がおいしさに惚れ込んでいる」と辻野さんは胸を張ります。「食べたときにすぐ食べられるよう、どの家庭でも常備しておく。そんなおやつを思つたときにすぐ食べられるだけ手を触れないようになります」と話します。神経を使つ日々の業務で、励みになるのは、食べてくれた人の「おいしい」という言葉。「会社に手紙で伝ええてくださるお客様もいらっしゃって、そうした言葉を支えに頑張っています」。

製造を担当する仮屋崎貴代さんは、「お客様と接する機会は少ないのですが、食べてくれる皆さんの笑顔想像しながら、安心のものを届けられるよう作業している」と話します。「出来たてを食べられるのが工場勤務の特権ですね。この時点ではミルク感がありないのでですが、ほんのり温かくサックリした食感。時間がたつとしつとり感とミルク感が増して、紅茶によく合います」とのこと。オープントースターで少し焼くと、出来たてのサックリした食感が復活するのです。「持てる力は出しきった」と辻野さんが言いつける同じ商品には、すでに「変えないでほしい」という声が多く上がっていました。「長年変わらない味として、年配の方から小さな子どもまで、家族みんなで楽しめます。皆さん之力でそんなお菓子に育てていただけたらと思います」。食べれば笑顔になれるお菓子で、ぜひ楽しめます。

